

実例

実践紹介

パート2

オーストラリアの家庭の多くは、家のいろいろな所でDIYをしています。そんな実例としてパース生まれのパース育ちのイアン・マレーンさんのご自宅を紹介します。マレーンさんは家を建てる際に、職人の取りまとめや一部工事自ら行ない、現在でもDIYを実践しています。そんなマレーンさんの家を通して、DIYの素晴らしさを見てみましょう。

DIY 実践者【その2】



■イアン マレーンさん
Ian Mullane

土地を購入後、1979年に自分の家を建てる。手先が器用で、モノ作りを好み、料理や園芸、クラフト作りなどを趣味とする。



ブリックを積んでいる最中のひとコマ。



マレーンさんも手伝って地盤を作る様子。



マレーンさんの倉庫の棚

「棚は父親から受け継いだものにペンキを塗ってきれいにしたものです。他にも父親から受け継いだものがたくさんありますよ。」



自分で設置したルーフ

「ジャグジーから夜空の星を観られるように骨組みだけのものを選択しました。自分でやるから、自分の思い通りにできます。」

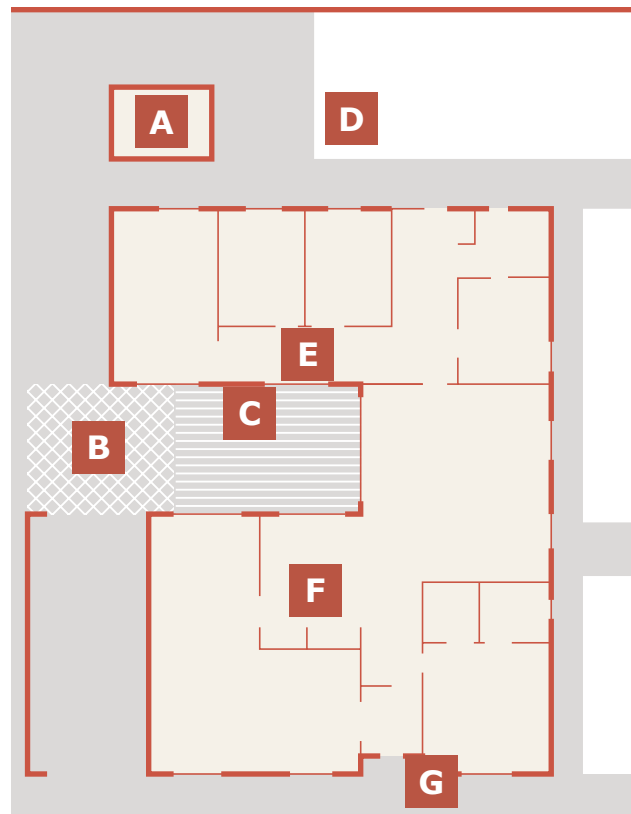


自分で穴を開けてフックを設置し吊した鉢植え

「構造を理解していると工事も簡単です。梁の位置を知っているから、どこに穴を開けていいか解るんですよ。」



〈マレーンさん宅 平面図〉



庭にあるスプリンクラーシステム

「解らない部分があったので、お店の店員に聞いて購入しました。DIYから人の温かみに触れることもあります。」



幅に余裕をもたせた廊下

「タイルが真っ直ぐでなく曲がっている部分もありますが、『自分でやった』ということが大切だから気にしなかったです。」



床タイルの張替えを行なったキッチン

「ここのタイル張り替えは子どもも手伝ってくれました。DIYは皆でやることでコミュニケーションに繋がります。」



奥さんが設置したインターホン

「自分たちでやるからコストも削減できます。下書きをしないで設置したから、少し曲がってしまっているけど(笑)。」



駐車場の壁に吊るされたDIY工具



きれいに整頓されたDIY用の工具箱

マレーンさんのコメント

「父親がやっているのを子どもの頃から見ていて、時には手伝っていたので、自然とDIYのやり方を覚えしました。解らないことは友達に聞いたり、友達の知り合いを紹介してもらったりしながら学んでいきました。コストも抑え、直すことで愛着のあるものを長く使用できるし、何より自分が作ったという満足感が得られるのがDIYの魅力ですね。」



※今回、取材に協力してくれたマレーンさんは、実は本誌でもお馴染みのパース出身のお笑い芸人「チャド・マレーン」のチャドのお父さんです。紹介した家は、チャドが日本に行くまで住んでいたチャドの実家です。

30年以上も前になる完成時の建物。完成までに4ヶ月半を費やした。

